

## 21 世紀社会のための「デザイン学」の展望

21 世紀を迎えて、「デザイン」（ここでは“設計”と狭義の“デザイン”を包摂する Design をデザインと呼ぶ）を問い直すことが求められています。すなわち、単に人工物を作ればよかった時代は終わり、人工物相互の関係や人工物と人間・社会・経済・環境との関係を創り出すことが課題となっています。こうした複雑でダイナミックなシステムをデザインするためには、多くの異なる立場・領域の関係主体の対話に基づく参加と協働のプロセスが不可欠です。さらに、グローバル化が進む現代社会におけるデザインでは、思い切ったイノベーションを可能にし、美的・文化的価値を生み出す「創造性」が求められていることは言うまでもありません。

本パネルディスカッション（PD）では、シンポジウムを共催する 6 学会から選出されたパネリストの間で、これまでのデザインの理論・方法の研究と実践を踏まえて、デザインの内容、対象・システム、思考・プロセス、道具・手法、場・組織、言語・理論、行為・実践、機能・意味、価値・評価、社会的状況、デザインの科学・倫理などの論点について活発な議論を繰り広げ、21 世紀社会のデザインの在り方を指し示す「デザイン学」を展望してみたいと思います。

折しも「デザイン学」は 2013 年度から科学研究費の審査分野の一般的細目として認められました。従来のモノの機能や形状に関する“デザイン”を超えて、生活環境すべての事象をデザインすることが求められていることから、分野を超えた知を集結する学が提唱されたわけであり、その意味で「デザイン学」は時宜を得た主題であると言えます。

デザイン概念が問い直されるとき、「デザインスクール」が話題になることが多く、近年、世界各地でデザインスクールの設立が相次いでいることにも注目したいと思います。2005 年に設置されたスタンフォード大学デザインスクール、2010 年にヘルシンキ工科大学・経済大学・芸術大学が合併して創設されたアールト大学などがその代表的な事例です。日本でもデザインスクールに対する関心が高まっており、そのような動向も踏まえて議論ができればと考えています。

この PD が、新たなデザイン概念に対する理解を深め、学術的、実践的な領域横断を加速し、広く環境や社会のシステムのイノベーションに繋がることを期待しています。

### パネリスト

本江 正茂（日本建築学会・東北大学准教授）

藤田喜久雄（日本機械学会・大阪大学教授）

青山 英樹（精密工学会・慶應義塾大学教授）

大高 敏男（日本設計工学会・国士舘大学教授）

松岡 由幸（日本デザイン学会・慶應義塾大学教授）

諏訪 正樹（人工知能学会・慶應義塾大学教授）

### コーディネータ

門内 輝行（Design シンポジウム 2012 運営委員会委員長・京都大学教授）

## <パネリスト・コーディネータの略歴>

### 本江正茂(もとえ まさしげ) 日本建築学会

東北大学准教授 (工学研究科都市・建築学専攻)

1989年東京大学工学部建築学科卒業、1991年同大学院工学系研究科修士課程修了、1993年同博士課程中退。1993年東京大学助手、2001年宮城大学事業構想学部専任講師を経て、2005年より現職。博士(環境学)。都市建築デザイン学講座の中のITコミュニケーションデザイン学分野を担当し、情報技術が拓く都市と建築の新しい使い方に関する研究に従事。現在、東北大学せんだいスクール・オブ・デザイン(SSD: Sendai School of Design)の校長を務めている。

### 藤田喜久雄(ふじた きくお) 日本機械学会

大阪大学教授 (工学研究科)

1985年大阪大学工学部産業機械工学科卒業後、1987年同大学院工学研究科修士課程及び1990年同博士課程を修了。1990年大阪大学助手、1993年同講師、1995年同助教授を経て、2002年より現職。博士(工学)。専門分野は、設計学・設計方法論(製品設計のための方法論、シンセシス論、モデリング論など)、設計のための情報システム(知識管理型設計支援システム、分散協調型設計支援システムなど)、設計最適化などの設計工学の研究に従事。現在、大阪大学超域イノベーション博士課程プログラムのプログラム部門・部門長、プログラムコーディネータを務めている。

### 青山英樹(あおやま ひでき) 精密工学会

慶應義塾大学教授 (理工学部システムデザイン工学科、総合デザイン工学専攻)

1981年室蘭工業大学工学部機械工学科卒業後、苫小牧工業高等専門学校助手、北海道大学工学部精密工学科 研究員、カリフォルニア大学 客員研究員を経て、1994年慶應義塾大学専任講師、1996年同助教授、2004年より現職。博士(工学)。コンピュータ支援型の設計システム及び生産システムに関する研究の研究を幅広く展開している。具体的にはデジタルデザインシステムやデジタルマニュファクチャリングシステムの研究、スタイルデザイン支援CADシステムの開発などに従事。

### 大高敏男(おおたか としお) 日本設計工学会

国土館大学教授 (理工学部機械工学科)

1990年山形大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程修了。1990年東芝・家電技術研究所、2000年東京都立工業高等専門学校助教授、2003年東京都立大学客員講師兼任、2007年国土館大学准教授を経て現職。博士(工学)。専門分野は、動力・エネルギー機器、流体機械、冷凍・空調システム、スターリング冷凍機、機械設計。こうした経験を踏まえて、実践的な機械設計手法や3次元CADを活用したものづくり手法の教育・研究に従事。

### 松岡由幸(まつおか よしゆき) 日本デザイン学会

慶應義塾大学教授 (理工学部機械工学科、理工学研究科総合デザイン工学専攻)

1979年早稲田大学理工学部機械工学科卒業、1982年千葉大学大学院工学研究科修士課程修了。博士(工学)14年間日産自動車で、主に乗用車の内装や外装を設計し、1996年以降は慶應義塾大学にて、新たな設計理論&方法論の研究と教育に従事している。専門分野は、デザイン科学、デザイン理論・方法論、設計工学、プロダクトデザイン、人間工学、感性科学、情報デザインなど。慶應義塾大学21世紀COEプログラム先端デザインスクールリーダーなどを歴任。

### 諏訪正樹(すわ まさき) 人工知能学会

慶應義塾大学教授 (環境情報学部、政策・メディア研究科)

1984年東京大学工学部卒業、1986年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了、1989年同博士課程修了。工学博士。(株)日立製作所基礎研究所研究員、オーストラリアシドニー大学建築デザイン学科主任研究員、中京大学情報理工学部教授を経て、現職。専門分野は、認知科学、人工知能、デザイン(創造)科学。これらの研究を基盤として、既存の学問体系を超えて、身体と感性と社会的コミュニケーションの研究に幅広く取り組んでいる。

### 門内輝行(もんない てるゆき) Design シンポジウム2012 運営委員会委員長

京都大学教授 (工学研究科建築学専攻)

1973年京都大学工学部建築学科卒業、1975年東京大学大学院工学研究科修士課程修了、1977年10月同博士課程中退。1977年11月東京大学生産技術研究所助手、1989年早稲田大学理工学部助教授、1997年同教授を経て、2004年より現職。複雑な人間-環境系を解読し、それを豊かな生命と暮らしを育む生活環境のデザインに統合するシンセシスの科学の構築とデザインの実践を推進している。専門分野は、建築・都市計画、建築・都市記号論、設計方法論、景観デザイン論など。現在、京都大学博士課程教育リーディングプログラム・複合領域型(情報):デザイン学大学院連携プログラムに参画している。